

中部圏社会 経済研究所 小池宜弘 代表理事 インタビュー



中部圏をカバーする総合的、中立的なシンクタンク「公益財団法人中部圏社会経済研究所」の代表理事に小池宜弘氏が就任した。圏域の景気動向の分析や研究実績を踏まえ、自治体、企業への提言を続けており、その総合的、専門的な知見は各方面から高い評価を得ている。「タイムリーなテーマ分析などで発信力を高めたい」と語る小池代表理事に地域経済の見通し、課題解決の鍵などについて語ってもらった。

—代表理事に就任されました。抱負を聞かせてください。

小池宜弘代表理事 社会情勢が激しく動く中、この地域の未来の姿を考える時、当研究所が果たすべき役割の大きさを痛感しています。中部圏は自動車、工作機械、航空宇宙、セラミック、電子部品など日本経済を支えるものづくり産業の集積地ですが、人口減少の進行や人手不足などで産業構造の転換が求められています。現状を客観的に把握して調査研究し、データに基づく分析を行い、企業や自治体の皆様へ提供していきたいと考えています。

—研究所の役割、運営方針は。

小池代表理事 当研究所は中部9県を広域的にカバーする唯一の総合的、中立的なシンクタンクで、地域の意思決定に資する知見を提供することが役割です。着任してからも引き続き、現中期計画で掲げている「ステークホルダーとのコミュニケーションの推進」「研究体制の強化」「発信力の向上」の3つの活動の柱を着実に進めていきます。発信力については当研究所の研究員がコメントを求められる機会も徐々に増えるなど研究所の認知度が上がりつつあり、この流れを推進していきます。

—最近の主な活動、研究成果について。

小池代表理事 中部圏の景気動向の分析や中部プロジェクトマップの作成などを実施し、産業構造の転換、中山間地域の産業振興、農業とインフラ、スタートアップなどのテーマについ

て調査研究しています。今年度末には総仕上げを含む各研究会の成果を報告書にまとめて公表する予定です。昨年度はトランプ関税による中部圏、特に自動車や機械産業への影響を試算して発表したところ、反響が大きく、テレビ、雑誌等から多くの問い合わせをいただきました。今後もタイムリーなテーマを分析して有益な情報を発信していきたいですね。

—最近の円安、株価をどう見えていますか。

小池代表理事 円安はプラスとマイナスの両面あります。輸出企業にとっては円換算の収益を押し上げる一方、輸入物価の上昇を通じてエネルギー、原材料、食料品などのコストを引き上げていて、情勢を注視する必要があります。株価は半導体関連を中心に非常に好調で企業収益の成長期待を反映して堅調に推移していて、企業の投資余力や家計の資産効果に繋がる面があります。一時7万円台の後、乱高下するなど、実体経済との乖離には注意が必要です。

—円安の是正については。

小池代表理事 為替も金融の世界の話ばかりではなく、我々が意識しなくてはならないのは、国力が弱まっているのが円安に繋がっている面があるということです。さらなる産業振興のためにも中部地区でものづくりに関わるイノベーションをどう起こすか、我々も研究して、地域の発展に貢献したいですね。

—原材料価格、人件費の上昇が中小企業に与える影響と対策は。

小池代表理事 中小企業にとっては大きな経営課題です。目下の課題は物が無いというよりも価格ですね。仕入れ価格などを十分に販売価格に転嫁できない企業は利益率が低下し、資金繰りや投資余力に影響が出やすくなります。業務効率化による生産性向上や付加価値を上げることが企業にとって益々重要となります。

―地域経済の現状と今後の見通しを。

小池代表理事 今年4月分の中部圏景気動向指数は中部5県の基調判断を「足踏み」としました。物価高と海外経済の不透明感が続く一方で、製造業の底堅さと設備投資が景気を下支えしています。昨年12月に公表した今年の中部5県の経済成長率の推計は前年度比+1.1%でした。円安による輸出産業の採算改善やAI（人工知能）関連の投資拡大が要因です。原油価格、金利の上昇などで企業マインドが悪化すれば設備投資が下押しされる可能性があります。今年後半の経済動向は予測が難しいですが、半導体需要とそれに付随した製造装置需要がおそらく景気を引っ張ってくれるでしょう。中東情勢が米国の中間選挙に合わせて解決に向かうことができれば、原油、エネルギー価格が落ち着き、2027年度には状況が好転していくという見立てです。

―地域の課題、克服の鍵は。

小池代表理事 課題はポテンシャルという見方もできます。自動車産業の裾野は広く、航空宇宙産業もこのエリアに集積しています。先端成長分野と目されるフィジカルAIはものづくり産業と直結した話ですよ。フィジカルAIが工場に入れば人の雇用がなくなるのではないかと心配する意見もありますが、むしろ新たな産業が生まれると思います。ソフトウェアに日本は弱いといわれますが、フィジカルAIに何をさせるかという点では集積があるこのエリアは有利との見方もあります。もう一つの大きな課題である人手不足と人口減少の克服の鍵は生産性の向上と人材の定着ですが、若者や女性が学びたい、働きたい、暮らしたいと思える地域にしていくことが重要ですね。

―リニア中央新幹線への期待を。

小池代表理事 静岡工区が今年度中に着工とのニュースもありましたが、当研究所は2018年にリニアの開業効果を試算しました。開業10年後までの経済効果は全国で14兆8,000億円、中部圏だけで7兆1,000億円でした。非常にインパクトのあるインフラで、名古屋駅周

辺でのオフィス開発やリニア停車駅からの二次交通の整備、広域観光など開業効果を最大限に取り込むための準備が必要です。開業予定時期が分かればさらに機運が盛り上がりますね。

―アジア競技大会が始まり、パラ大会も続きます。経済効果は。

小池代表理事 愛知県が昨年12月に出した経済効果の試算は1兆8,000億円でした。開催期間中にインバウンドも含めてこの地域に集まる人が増えれば、エリアを知っていただく良い機会になり、経済効果も膨らみます。

―ステークホルダーなどへのメッセージを。

小池代表理事 当研究所は公益財団法人ですので、自治体にも貢献していきたい。根拠に基づく政策評価、予算を使った効果など説明責任を含めて自治体には従来以上の対応が求められており、国レベルでもEBPM（証拠に基づく政策立案）推進が求められています。我々はデータ分析を積み重ねて政策の効果についてアドバイスができると思います。自治体に伴走支援して貢献していきたいと思います。

―座右の銘、趣味を教えてください。

小池代表理事 「チャンスは準備された心に降り立つ」というフランスの細菌学者、ルイ・パスツールの言葉が好きですね。チャンスに気づくかどうかは普段から考えているかどうかによる、というもので「幸運の女神は、偶然微笑まない」とも意識されます。趣味は登山で富士山、北岳、奥穂高岳の高峰トップ3をはじめ、日本百名山を中心に登っています。7月下旬に50座登頂を達成したところです。山頂に立った時の達成感は何とも言えません。

―ありがとうございました。



小池 宜弘（こいけ・よしひろ） 1967年12月生まれ。90年名古屋大学経済学部卒業、中部電力株式会社入社。2014年三重支店営業部長、18年東京営業部長兼ダイヤモンドパワー株式会社社長、21年中部電力ミライズコネクスト株式会社副社長、25年地域共生部長、26年公益財団法人中部圏社会経済研究所理事、同年7月1日付で同研究所代表理事に就任。